

国語科学習指導案

指導者 浅井 祥代

1 日 時 令和6年 11月 7日(木) 第5校時

2 学 級 第4学年 15名

3 単 元 名 工芸品のみりょくについて、リーフレットで交流しよう
教 材 名 「未来につなぐ工芸品」(読むこと)
「工芸品のみりょくを伝えよう」(書くこと)

4 単元目標

- ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 [知識及び技能](2)イ
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 [知識及び技能](3)オ
- ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ
- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 [思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

5 単元で取り上げる言語活動について

言語活動について	工芸品の魅力を伝えるリーフレットを作り、交流する。 (関連：[思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ・C(1)ウ)
特徴	選んだ工芸品について、調べたことを整理し、リーフレットにまとめる。 リーフレットには、「工芸品とは」や工芸品の魅力とその理由や事例、工芸品への自分の思いを書く。
単元目標との繋がり	教材文「未来につなぐ工芸品」を読むことで、リーフレットの裏表紙に「工芸品とは」を書くという「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約」することを実現できる。リーフレットを作る際には、自分が調べたい工芸品を選び、教材文で使われている筆者の書き方の工夫を生かし、魅力の理由や事例を書くことで、「理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫」することが実現できる。 [思考力、判断力、表現力等]B(1)ウ・C(1)ウ

工芸品とは？

工芸品とは、地いきのくらしに根づいて発展してきたせい品のことです。身近なそざいを活用して生み出され、その土地の文化や風土と合わさって発展してきた工芸品は、「使いやすさ」や「美しさ」といったみりよくにあふれています。

著者

千葉均 著
「調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく」

6住にかかわる伝統工芸②文具と人形
ポプラ社 2020年

著者

三谷光 著
「みりよくを伝えよう 未来につなぐ工芸品」
3住～熊野筆、天童将棋駒ほか～
汐文社 2024年

ならすみ
奈良墨



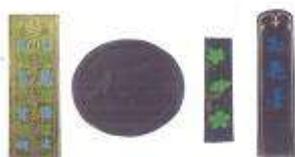
浅井 祥代

奈良墨とは

わたしは、教科書に出てきた奈良墨の作り方にきょうみをもったので調べてみました。

奈良墨は、書道に使う固形の墨です。約千三百年前から奈良市で作られており、さまざまな形や大きさがあります。(写真①) 奈良墨のみりよくを二つしようかいます。

写真①



▲奈良墨のみりよくの発見。奈良墨のみりよく

奈良墨のみりよく発見！！

一つ目は、深みとつやのある墨色です。奈良墨のざいりょうには、牛など動物の皮やほねをにて、取り出したゼラチンをかためた「にかわ」と、「すず」が使われています。「すず」は、油などをもやしたときに、ほのおやけわりから出てくる黒いちりのようなものです。(写真②) 奈良墨に使われている「すず」は、つぶが細かいため、上品でつやのある墨色が出るそうです。そのため、書道や日本画に使われています。

二つ目は、いつまでも使えることです。液状の墨は二、三年で使い切るものですが、固形の墨には使用期限がありません。そのため、三十年以上保存した墨は「かれ墨」や「古墨」とよばれ、さちょうな墨として人気があるそうです。(写真③)

工芸品への思い

このようなみりよくがあることから、わたしは奈良墨にとてもきょうみをもちました。かんたんに使える液状の墨もいいけれど、手間をかけて作られた奈良墨が、これからも受けつがれていってほしいです。

写真②



写真③



▲約150年前に作られた墨

6 単元について

(1) 単元構成について

本単元は、教材「未来につなぐ工芸品」（読むこと）と「工芸品のみりよくを伝えよう」（書くこと）を組み合わせた複合単元である。工芸品について書かれた本を読み、その魅力をリーフレットにまとめる言語活動を設定している。

「未来につなぐ工芸品」（読むこと）は、日本の伝統工芸の魅力を説明し、工芸品を残すことの意義を訴える文章である。「初め」「中」「終わり」で組み立てられた文章は構成が捉えやすく、筆者の考えも分かりやすいため、要約に取り組むのに適している。「工芸品のみりよくを伝えよう」（書くこと）は、「未来につなぐ工芸品」の学習を踏まえて、自分が選んだ工芸品についてその魅力を伝えるリーフレットを作らねらうとしている。

第一次では、教師のゴールモデルを見て、単元のめあてと単元計画の共有を行い、学習活動のイメージをもち、調べてみたい工芸品を選ぶ。

第二次では、教材文で学習したことを生かし、自分が選んだ工芸品についてのリーフレット作りを行う。児童が工芸品についてよく知らないことを想定し、今回は調査報告文で書く。

第三次では、完成したリーフレットを友達と読み合い、感想を伝え合う。

【ブックリスト】

1	調べる！47都道府県伝統工芸で見る日本	15	和紙ってなに？4/くらしの中の和紙
2	未来につなぐ工芸品『陶磁器・漆器・木工品・竹工品』	16	都道府県別伝統工芸大事典：日本全国の伝統工芸
3	みりよくを伝えよう未来につなぐ工芸品1衣	17	伝統工芸のきほん1/焼き物
4	みりよくを伝えよう未来につなぐ工芸品2食	18	伝統工芸のきほん2/ぬりもの
5	みりよくを伝えよう未来につなぐ工芸品3住	19	伝統工芸のきほん3/木工と金工
6	日本の職人さん2/漆器をつくる職人さん	20	伝統工芸のきほん4/布：織りもの そめもの
7	日本の職人さん4/木工品をつくる職人さん	21	伝統工芸のきほん5/和紙と文具
8	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく1/衣	22	世界にほこる和紙[1]/和紙のよさと作り方
9	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく2/衣	23	世界にほこる和紙[2]/和紙の美しさと歴史
10	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく3/食	24	世界にほこる和紙[3]/伝統工芸のよさを伝え
11	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく4/食	25	子どもに伝えたい和の技術5/あかり
12	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく5/住	26	子どもに伝えたい和の技術2/和紙
13	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく6/住	27	わくわく発見！日本の伝統工芸
14	伝統工芸		

(2) 児童について

本学級は、新しいことに対して興味を持って取り組める児童が多い。しかし、今回の教材文に出てくる工芸品については、身近なものではないだけに、いかに目的意識を持って取り組めるかが重要になってくる。

日々の授業においては、自分の考えを相手に伝えられるように、ペアやグループによる学習を他教科においても積極的に取り入れてきた。また、新たな考えを持つことができるように、誰とでも交流してよい場面を設定し、学級全体で自分の意見を言える雰囲気を作ってきた。しかし、自分の考えが持ちにくく、発言することに苦手意識を持っている児童もいる。周りの働きかけによって少しでも意欲的に取り組めるようにと願っている。また、自分の考えを伝えることができる児童であっても、相手の考えからさらに内容を深めるといふ点においては課題が見られる。

「読むこと」においては、1学期に「アップとルーズで伝える」の単元で、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について読み取る学習を行っている。また、「要約するとき」の単元で、文章全体の内容を捉えた上で、中心となる語や文を選び、要約する学習を行っている。そのときは既習の「思いやりのデザイン」を使って学習したため、中心となる語や文が比較的分かりやすかった。本単元では、自分で選んだ工芸品についての文章を読み、その中から中心となる語や文を見つけることが必要となり、児童にとっては難しいと考える。そのため、児童同士が交流を行うことによって、自分の考えをはっきりさせる場面を設定した。

(3) 言語活動の充実に向けた港小の取り組み

【4 STANDARD】（「読むこと」の授業を行う際に、必ず大切にしたい4つのこと）

	STANDARD	概要
1	指導事項チェック	学習指導要領解説や指導事項チェックシートを活用し、指導事項を確認し、系統性を意識しながら、教材研究を行う。
2	ゴールモデルの共有	単元の導入時に、児童とゴールモデルを共有し、単元の見通しをもたせる。
3	単元のめあての共有	単元の導入時に、ゴールモデルと共に、単元のめあてを共有し、単元の目標を理解させる。
4	単元計画の共有	ゴールモデルや単元のめあてと共に、単元計画を共有し、単元の見通しをもたせる。

【7 CHALLENGE】（単元や児童の実態、担任の思いによって、選択しながら大切にしたい7つのこと）

	CHALLENGE	概要
1	単元計画の充実	カリキュラム・マネジメントや単元計画の立て方の工夫など、単元目標を達成するために、効果的な単元構成を行う。
2	目的・必然性の設定	単元のゴールとして、学級外の相手に発表するなど、目的や必然性をもたせる。
3	読書活動の充実	学校図書館の活用・図書館司書との連携・並行読書等を通して、多くの本と出会い、言語能力の育成を図る。
4	交流の場の設定	自分の思いや考えを伝え、学びあえる児童の育成を目指し、目的をもって、交流の場を設定する。
5	タブレット端末の活用	実践を共有しながら、つきたい力をつけるため、効果的な活用方法を工夫していく。
6	各学年オリジナルチャレンジ	言語活動を充実させるため、各学年の実態や発達段階に応じた取り組みにチャレンジする。
7	実践の積み上げ	単元計画や板書画像、並行読書リスト、ゴールモデル、ワークシートなどを残し、今後の授業改善にいかす。

(4) 指導について

第一次では、いろいろな工芸品を紹介し、工芸品が現在まで受け継がれてきたことには理由（魅力）があることについて考えさせる。教師のゴールモデルを紹介し、単元のめあてと単元計画の共有を行う。

【STANDARD 2・3・4】完成したリーフレットを友達と読み合い、文章の書き表し方の工夫など、感想を伝え合うことを単元のゴールとして設定する。それによって、目的をもって学習活動に取り組めるようにする。また、学校図書館司書と連携し、教室に工芸品に関する資料を置くスペースを作る。【CHALLENGE 3】

第二次では、教材文で学習したことを生かして、自分の選んだ工芸品についてのリーフレット作りに取り組む。まず、教材文を読み、リーフレットの裏表紙に載せる「工芸品とは」を書く目的をもって、要約に取り組ませる。次に、教材文の「初め」「中」「終わり」の構成が自分のリーフレット作りにも使えることに気付かせ、書く内容を考えさせていく。「中」の部分に書く内容については、資料から自分が魅力であると考えたことの原因や事例を見つけ、それを友達と交流することではっきりさせていく。【CHALLENGE 4】その際、筆者の書き表し方の工夫を見つけ、それを自分の文章に生かせるようにする。「終わり」の部分には、工芸品について調べてみて自分が考えたことを書かせる。

第三次では、完成したリーフレットを友達と読み合い、感想を伝え合わせる。友達のリーフレットを読み、自分とは違う文章の書き表し方の工夫を知るとともに、その良さを交流させたい。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。B(1)ウ	①粘り強く、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約したり、書き表し方を工夫したりしようとするとともに、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。
②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ	②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。C(1)ウ	

8 指導計画 (全 14 時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1	1	○工芸品の魅力を伝えるために役立つ情報を集め、その情報をもとに自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、リーフレットにまとめるという学習の見通しをもつ。 ○教師が作成したゴールモデル (調査報告文) のリーフレットを見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のゴールモデルを見せることで、児童が単元の見通しをもつことができるようにする。 ・工芸品について書かれた本を読み、自分が調べてみたい工芸品を次時 (1 週間後) までに選ばせる。 	<p>□幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。</p> <p>【知識・技能②】 (発言・メモ)</p>
	2	○単元計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールモデルを見ながら、リーフレットを作るために必要な学習活動を確認させる。 	
	3	○選んだ工芸品についての本を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない言葉は辞書で調べさせる。 ・工芸品のいろいろな魅力を見つけさせる。 	
2	4 5	○教材文を「初め」「中」「終わり」のまとまりに分け、リーフレットの「工芸品とは？」を書くために、中心となる語や文を見つけ、要約する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のリーフレットの裏表紙に「工芸品とは」を書くために、要約することを確認、200字程度で要約させる。 	<p>□「工芸品とは？」を書くために、中心となる語や文を見つけて要約している。</p> <p>【思考・判断・表現②】 (発言・ワークシート)</p> <p>□自分の選んだ工芸品について説明するために、中心となる語や文を見つけて要約している。</p> <p>【思考・判断・表現②】 (発言・ワークシート)</p>
	6	○自分が伝えたい工芸品の魅力についてのリーフレットの構成を考え、「初め」の部分を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールモデルにも「初め」「中」「終わり」が使われており、リーフレット作りにもその構成が使えることに気付かせる。 ・自分の選んだ工芸品についての説明を本から見つけ、要約させる。 ・どういうところに興味を持って調べようと思ったのかを書かせる。 	
	7	○「中」の部分を書くために、自分が伝えたい工芸品の魅力について理由や事例を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットに載せたい魅力を選ばせ、その理由や事例を見つけさせる。 	

	8 (本時) 9	○前時で見つけた理由や事例が魅力を伝えるのにふさわしいか友達と交流し、構成メモに要約する。	・友達と交流する中で、情報を整理できるようにさせる。	□自分の選んだ工芸品の魅力を伝えるのにふさわしい理由や事例を見つけ、要約している。 【思考・判断・表現②】 (発言・ワークシート)
	10 11	○教材文から見つけた筆者の書き表し方の工夫を生かし、「中」の部分を書く。	・自分の文章に生かしたい表現や「順序を表す言葉」「理由の書き方」「例えば～」「写真や絵を入れる」等に目をつけさせる。	□自分の選んだ工芸品の魅力とそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。
	12	○「終わり」の部分に自分の考えを書く。	・自分の選んだ工芸品について、調べてみて考えたことを書かせる。	【思考・判断・表現①】 (発言・ワークシート・リーフレット)
	13	○友達とアドバイスをし合い、リーフレットを清書する。	・参考文献を書かせる。 ・誤字脱字のチェックをさせる。	□比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。【知識・技能①】 (リーフレット)
3	14	○完成したリーフレットを友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○単元の学習をふり返る。	・友達の文章の書き表し方の工夫に気付かせる。	□粘り強く、リーフレットを書くことを意識して、中心となる語や文を見つけて要約したり、書き表し方を工夫したりしようとするとともに、学習の見通しをもって、報告する文章を書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・ワークシート・リーフレット・観察)

9 本時について（8/14）

(1) 本時の目標

自分の選んだ工芸品の魅力を伝えるのにふさわしい理由や事例を見つけ、要約することができる。

(2) 本時の評価規準

自分の選んだ工芸品の魅力を伝えるのにふさわしい理由や事例を見つけ、要約している。

[思考・判断・表現②]C(1)ウ

(3) 展開

○学習活動	●指導上の留意点	□評価 【評価の観点】 (評価方法)
①単元のめあてや単元計画を確認し、本時のめあてを確認する。	●単元のめあて・単元計画・ゴールモデルを活用し、本時のめあてを視覚的にも把握できるようにする。	
<p>自分が選んだ工芸品のみによく伝えるのにふさわしい情報を見つけ、要約して書こう。</p>		
<p>②学習の進め方を確認する。</p> <p>③付箋を貼った情報を見返し、自分が特に強く魅力を感じて伝えたいことは何か、確認する。 一人</p> <p>④選んだ工芸品の魅力についての理由や事例を話し合い、自分の考えをはっきりさせる。 ペア</p> <p>⑤話し合ったことを基に、「中」の部分に書く内容を決め、構成メモに書く。一人</p> <p>⑥本時の学習をふり返る。</p>	<p>●視覚的に把握できるようにする。</p> <p>●声に出して言わせる。</p> <p>●自分の考えを明確にさせるために、複数の児童と交流させる。</p> <p>●理由や事例が相手に分かりやすいものであるか確認するために、交流させる。</p> <p>●交流するときは、意味が分からないことを質問させたり、それに対して自分の言葉で説明させたりする。その際、文章や絵・写真などを指しながら説明させる。</p> <p>●交流の間に、書き加えたり修正したりしてもよいことを伝える。</p> <p>●必要な語や文を使って短くまとめさせる。</p> <p>●友達との交流をふり返り、次時の学習につなげる。</p>	<p>□自分の選んだ工芸品の魅力を伝えるのにふさわしい理由や事例を見つけ、要約している。 【思考・判断・表現②】 (ワークシート・発言)</p>

奈良墨

のみりよく

名前 (

)

①深みとつやのある墨色

みりよくを説明するための情報を要約して書こう。

奈良墨に使われる「すす」はつぶが細かい
ため、上品でつやのある墨色が出る。

②いつまでも使える

みりよくを説明するための情報を要約して書こう。

液状の墨は二、三年で使い切るが、固形の
墨には使用期限がない。